

区民車座集会(麻生区)の発表資料【テーマ;高齢者支援】

一金程富士見会、福祉コミュニティ(福コミ)の活動について

(1)金程富士見会の概要

町会設立	昭和36年11月 (1961年)
面積	約 12ha
会員数	戸建住宅; 432世帯、集合住宅; 約100戸
全世帯数	630世帯 (人口; 約1,700人)
特徴	<u>・区域の8割が、地元不動産業者のミニ開発の造成地です。</u> <u>・昭和35年から富士山が見える自然豊かな住宅地として入居しました。</u> <u>・インフラも整ってなく、新住民が協力して手作りで街づくりをしました。</u> <u>・この為、今でも町会活動は、前向きで、結束力・団結力の強い町会です。</u>

(2)取組の背景

平成25年4月 町会創立50周年を迎え、入居当時若者であった住民も年齢を重ね、高齢化率も30%を超えました。また、新築の木造家屋も老朽化して、耐震・火災の問題も危惧されてます。このような中で住民が、お互いが助け合い、安心して暮らせる豊かな街にするには、日常の町会活動とは別に専門的に・継続的で取組み易い組織づくりが必要となりました。

今までは、高齢者に対する見守り、支援活動は、……民生委員・老人会まかせである。
災害時要援護者避難支援活動は、……町会長と一部の役員と民生委員である。
地震、火災等に対する防災対策、啓発活動の推進は、……町会幹事 1名のみという状態であったが、平成24年5月から町会に 仮称「福祉コミュニティ」というプロジェクトチームを立ち上げ、主に災害時要援護者避難支援活動を推進してきました。

また、この組織を、平成26年4月町会総会で「福祉コミュニティ(福コミ)」と言う、下部組織として承認し、上記 ~ の活動を推進しています。

現在の福祉コミュニティ(福コミ)の組織は、会長を始め役員7名(民生委員を含む)、顧問5名(町会副会長・老人会役員)、支援者 25名(災害時要援護者の支援者21名、要見守り者のサポーター4名)で構成しています。 各要援護者に対し、支援者2~4名を選定しました。

注;町会長は負担が多くなるので組織内には入らず、町会からは連携の意味で副会長を顧問としました。

(3)代表的な取組 (災害時要援護者避難支援活動および高齢者等要見守り活動のみ発表)

【準備段階】 印のみ説明

(仮称)福祉コミュニティ会議;平成24年5・6月、平成25年5・6・8・9・10・11月、
平成26年1月 計9回

平成24年6月 福祉補助員制度の講演会 川崎市小田地区民協会長;小泉忠之氏

平成24年7~11月 50周年記念事業 防災班アンケート調査・避難所運営訓練アンケート調査

平成25年8月 災害時要援護者(6名)に民生委員が家庭訪問、現況報告
平成25年9月 災害時要援護者1名増
平成25年9月 **支援者の選定と組織図作成**
平成25年10月 **災害時要援護者と支援者顔合わせ(要援護者7名)**
平成25年9月 町会の防災活動への取組、広報・教宣(会報掲載)
~11月
平成26年1月 福祉コミュニティ(福コミ)活動計画(案)を検討。

【下部組織として承認後】

福祉コミュニティ(福コミ)役員会;

平成26年度;5・6・9・10・12・1・2・3月
平成27年度;4・5・6月 計11回

支援者会議 平成26年度;7月(2回に分け)
平成27年度;7月(")

講演会・勉強会・説明会等への参加

要見守り者の候補者リストアップと確定、サポーター選定 25名中3名
条件;77歳以上の一人暮らし・88歳以上の夫婦・障害のある方

支援者手引きの作成・配布 (平常時の見守り範囲・内容等)

支援者の一部変更を検討。 ご近所つながりの検討。

災害時要援護者へ平常時の見守り・安否確認・近況の確認。

(4)取組に関する課題

「災害時要援護者避難支援活動」も約3年が経過し、紆余曲折はあったが、福コミ役員、支援者も支援制度を理解し、活動(管理)システムも、日々定着してきたと思います。
(ヘルパーと勘違いして、夜中に呼び出される。ケアマネ・ヘルパーへの不満処理。食欲がないので支援者が自前でスープを届ける。災害時に「いの一番」に支援してもらえる等)
しかし、いつ何時「S・O・S」を生じる要援護者もおります。これからは、この活動を継続して「いざ鎌倉」の場合は、関連機関と連携しあい、(P・D・C・A)を回し、活動を推進します。
支援者・サポーターの選定……向こう三軒両隣で要援護者の日常生活が把握できる。
町会で災害時要援護者避難支援制度とは別に、見守り・安否確認活動部隊(サポーター)を編成し、要見守り者を募集したが、候補者25名中、3名しか申告がなかった。
理由としては、色々考えられるが、お互いに助け合い、ご近所つながりの輪を広げていく事が大切であると思っています。

【質問】 町会に未加入の要援護者は、当会としては支援しない方針であるが他町会はどのように対処していますか？

【要望】 災害時要援護者避難支援の登録時、対象者への説明・理解不足がないように！
ご近所に迷惑がかかる、100%支援してもらえない、等で辞退する。

【提案】 災害時要援護者避難支援制度は、「自助」「共助」の考えに基づき、地域のボランティアで取組んでいるが、年1回程度の「支援状況報告書」を提出させたらどうでしょうか？

以 上

出席者;山寺 雄三(現町会長)・矢澤 耕一(福コミ会長)・松澤 元(福コミ事務局)